

# タガワ・リバーサイド・ファクトリー

宇都宮市における地域産業再興に向けた河川沿い街区計画

田川はJR宇都宮駅の駅前を流れる河川であり、かつては川沿いに染物工場や製紙工場など多くの産業が賑わっていた。

現在は田川沿いに駐車場が多くみられ、豊かな水辺空間が十分に形成されておらず、田川を隔てて駅前と市街地がうまく接続されていない。

そこで田川沿いの、宇都宮市都心部の自律性を創出する新たな河川軸として位置づけ、沿いの街区を対象として、地域産業の再興に向けてタガワ・リバーサイド・ファクトリーを提案する。

## コンプレックス・ファクトリー

既存産業の振興と新規産業の創出を図る施設

## タガワプロムナード

田川沿いの新たな歩行者空間

## ハウジング・ファクトリー

地域産業の生産の拠点とした複合・住居施設

### 田川の概要

田川は江戸時代初期に用水の取込みが行われ、流域の水田を灌漑していたが「暴れ川」としても知られ、過去に幾度も氾濫していた。

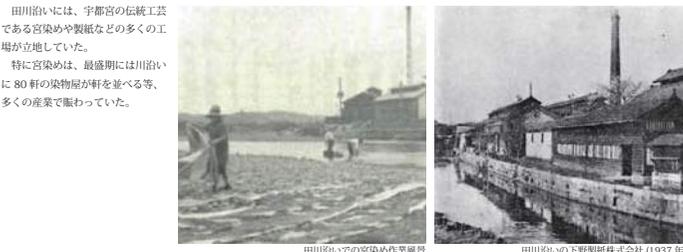
そのため1951年に田川改修工事に着手し、現在はコンクリートの護岸が整備されている。

地上から3.5mほど低いところに遊歩道が整備されているものの、ベンチや休憩場所等といった人の滞留空間が少なく、有効に活用されていない。

年	出来事
1660	元禄機軸により宇都宮城下の人口増大
1663	宇都宮藩の成立
1664	宮内省の職官に職官を任命し、田川沿いに
1665	田川沿いに染物工場や製紙工場など多くの産業が賑わっていた
1666	大田川による洪水
1667	大田川による洪水
1668	大田川による洪水
1669	大田川による洪水
1670	大田川による洪水
1671	大田川による洪水
1672	大田川による洪水
1673	大田川による洪水
1674	大田川による洪水
1675	大田川による洪水
1676	大田川による洪水
1677	大田川による洪水
1678	大田川による洪水
1679	大田川による洪水
1680	大田川による洪水
1681	大田川による洪水
1682	大田川による洪水
1683	大田川による洪水
1684	大田川による洪水
1685	大田川による洪水
1686	大田川による洪水
1687	大田川による洪水
1688	大田川による洪水
1689	大田川による洪水
1690	大田川による洪水
1691	大田川による洪水
1692	大田川による洪水
1693	大田川による洪水
1694	大田川による洪水
1695	大田川による洪水
1696	大田川による洪水
1697	大田川による洪水
1698	大田川による洪水
1699	大田川による洪水
1700	大田川による洪水



### 田川沿いの地域産業



### 宇都宮市の都市構造

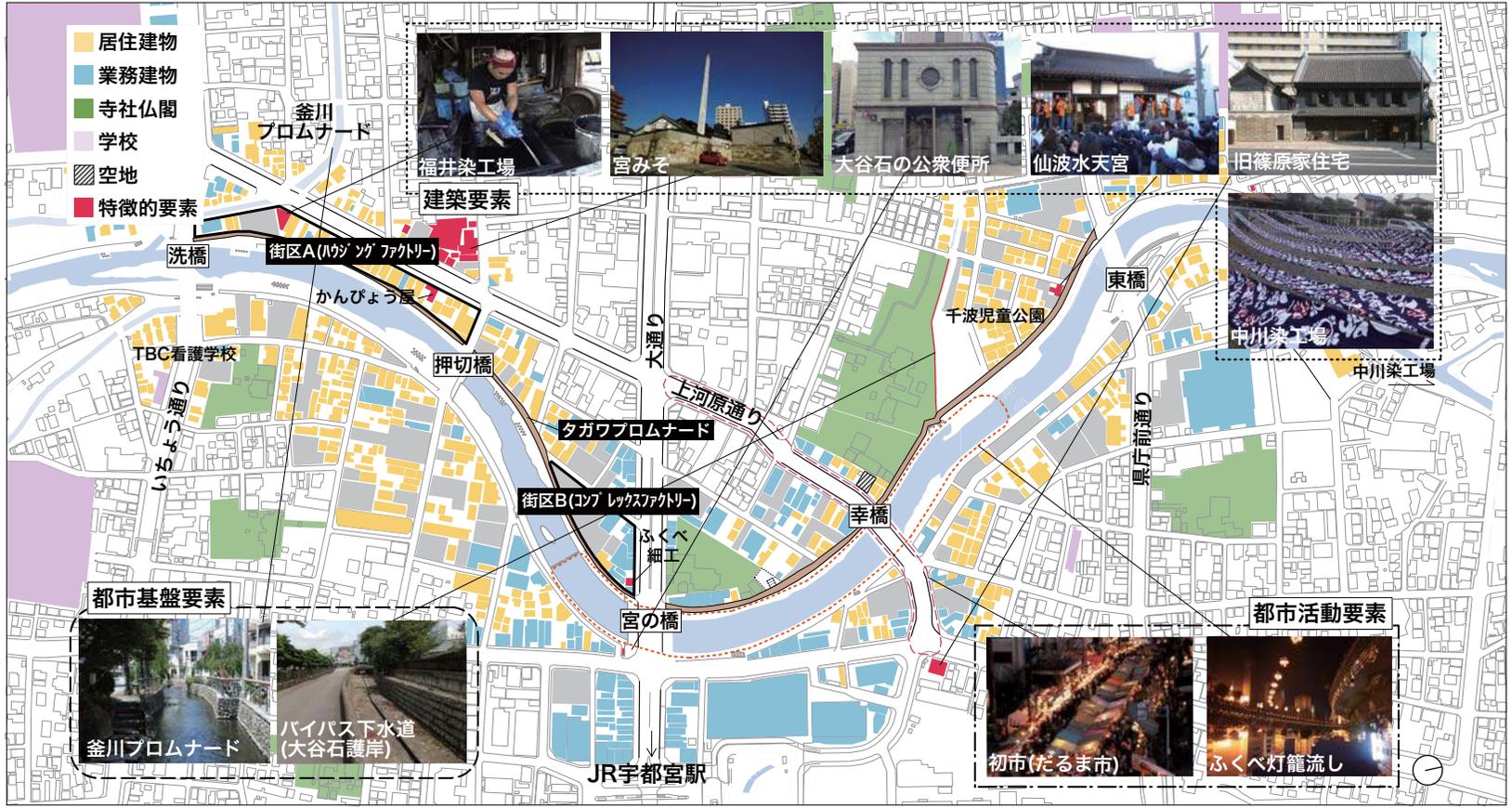
宇都宮市都心部の都市構造は、二荒山神社周辺のセンターコア、JR宇都宮駅周辺のJRコアと、2つのコアを結ぶ東西中心軸等によって構成されている。

また田川は、宇都宮市中心部を流れる釜川や、2つのコアを結ぶ大通り、駅前通り、いちよう通りの主要道路と交わるが、これらの軸とJRコアとの連携がうまくとれていない。



現在の田川沿いの建造物と都市活動

田川沿いには、店舗等の業務建物や住宅等の居住建物が混在しながらも、魅力的な要素が点在している。田川は、宇都宮城の外堀であったため、寺社などが多く立地し、東橋の南側には仙波水天宮、幸橋の東側には国指定重要文化財である旧篠原家住宅がある。また初市（だるま市）や、ふくべ灯籠流し等の行事も田川沿いで行われている。JR宇都宮駅開業と同時に架けられた宮の橋周辺には、高層の商業施設やホテルが多くみられる。押切橋と洗橋付近には、宇都宮の伝統工芸であるふくべ細工や宮染めを営む建物、大谷石造の工場で営まれる宮みその店等がある。



田川沿いの建造物と都市活動 1/2500

田川沿いの街区の特徴

宇都宮市の都心部内にある田川沿いの全22街区を対象に、街区の形状と接道条件を併せて検討することで、川沿いの街区の特徴を整理した。その結果、大きく6つのタイプに分けられ、そのうち幹線街路に面せず、四角形以上の街区形状をしたタイプが多くみられた。また、河川沿い特有の三角形や細長い形状をもつ街区もみられ、本計画では、それらの2カ所の街区を対象地とした。

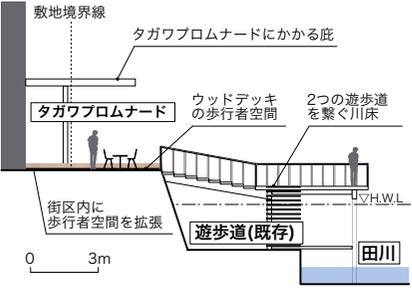
(街区数/川に面する長さの合計)

接道条件	幹線街路に面する	幹線街路に面さない
街区形状	幹線街路に面する	幹線街路に面さない
細長比3以上	(1/179m)	(3/267m)
3角形	街区B	(1/180m)
細長比3未満	(1/180m)	(1/180m)
4角形以上	(5/842m)	街区A
細長比3未満	(12/762m)	(12/762m)

田川沿いの街区の特徴

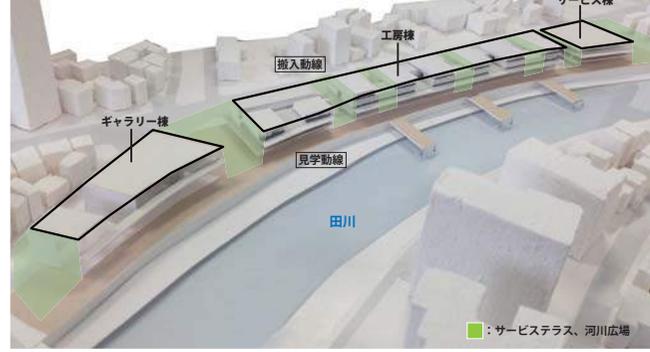
タガワ・リバーサイド・ファクトリーのシステム

■タガワpromナード  
田川沿いの魅力的な要素を繋ぐように、新たに遊歩道(タガワpromナード)を整備し、街に回遊性を創出する。タガワpromナードは隣接する街区内部まで拡張したウッドデッキの歩行者空間である(図7)。また、街区の一部を河川広場とし、上部に庇を設けて歩行者の居場所をつくる。さらに、既存の遊歩道と繋がるように川床を田川沿いの各所に設け、川沿いの一体的な利用を図る。



■2つの街区の建築システム

・ハウジング ファクトリー (街区A)  
敷地面積: 6450 m<sup>2</sup>  
建物規模: 容積率210%(既存とほぼ同規模)  
用途地域: 商業地域 (法定400%)



・コンプレックス ファクトリー (街区B)  
敷地面積: 4200 m<sup>2</sup>  
建物規模: 容積率598%  
用途地域: 商業地域 (法定600%)





